

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年 4月 26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670900150号
法人名	医療法人慈和会大口病院
事業所名	大口病院グループホームつどい
所在地	鹿児島県伊佐市大口大田124-3 (電話) 0995-23-0820
自己評価作成日	平成23年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

精神科の病院を母体に、老人性認知センター(むつみ苑)や授産施設、グループホームが広い敷地に設置されている。医療面では緊急時に近くに病院があることで家族にとっては安心である。そして社会復帰の一環として敷地内に野菜農園・鶏舎・パン工房がありホームの食材として毎日新鮮なものを食している。家庭的な環境・雰囲気作りに心掛けて、その中でのんびり、ゆっくりとした生活を送ってもらえるようなケアにつとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体となる大口病院の広大な敷地内に、精神科、整形外科、内科診療、老人性認知センターや授産施設などと並んで当ホームは開設されている。ほとんどが当病院のデイサービス利用、ならびに老人性認知センターからの利用者でなじみの関係ができてからの入居が多い。利用者は女性のみで、入居時の花嫁姿の写真をホーム内に飾るなど、独自の取り組みも実践している。食事の大切さを認識し、園内でとれる新鮮な食材を使った彩り豊かなメニューに工夫を凝らし、目でも楽しむ食事も提供している。ホーム行事には大勢の家族参加があり、利用者とともに喜びのひと時を過ごしている。職員は資格取得者がほとんどであるが、研修にも積極的に参加しており、資質向上に繋がっている。各部屋に置いてある家族ノートを活用し、ホームと家族との連携も良くとれ、日々のサービスに活かされている。利用者の表情も穏やかで笑いのある、ゆったりと時が流れているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	共有のリビングやスタッフ室に掲示して常に目に入り認識できるようにしている。住み慣れた地域でその人らしく生活する事を支えるケアのイメージで方言を用いている	方言を用いたホーム独自の理念を掲げ、毎日の申送りや月2回の職員会議で確認し、共有を図り、尊厳を大切にしたいかかわりを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の運動会・敬老会等に参加している。民生員によるボランティアを毎月1回訪問を受けている。専門学生の研修・同業者の訪問研修を受け入れ交流している	自治会に加入し、自治会の行事にも参加している。地域ボランティアの協力を得て、歌、紙芝居や絵本など読み聞かせを楽しむこともある。利用者はデイサービス利用や保育園児、他のグループホームとの交流、喫茶店や道の駅に出かけるなど地域と繋がっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	保育園児の訪問を受けたり、利用者が縫った雑巾を寄付したり日頃散歩や買物に一緒に出かけて挨拶を交わしている。保育園児とホームの横の広場で言葉を交わしたりしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催している。民生委員によりボランティアの参加・自治会の回覧板配布やホームの行事内容の広報を配布してそれに対して意見を聞いて参考にしている	利用者、家族、民生委員、ボランティアの地域住民、包括支援センター職員の参加をもらい、定期的開催している。参加者の意見から地域の情報を得て、地域とのつながりが広がっている。	

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	伊佐市GH連絡協議会に参加して一緒に研修に参加したりホーム便りを届けたり、ホームの現状やサービスの取り組みなど報告している	市開催の研修や会議へ参加や、介護保険関係の申請やホーム便りを届けたり、ホームの現状報告や取り組みなど伝えたり、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象を理解してミーティング・申し送りでその日のケアを振り返り拘束がないか、拘束でないか確認している。日中玄関など全ての鍵を掛けていないので外へ出られても止めずに話を聞いて一緒に出かけるようにしている	拘束についての勉強会や日々の状況を確認しながら全員で身体拘束の無いケアに取り組んでいる。職員の寄り添いのケアや所在確認の徹底、利用者の行動習慣に副った支援をしながら、施錠の無いケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修等の報告の際虐待の事には触れて話し合っている。本人は思っていないかも知れない。言葉の虐待には充分気をつけようと話し合っている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今ホームには家族の縁の薄い入居者が2人（生活保護）おられる金銭面などのことは全てホームで管理している。研修は受けているので対象者がでたら出来る限り支援していきたい			

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は本人・家族に契約書・重要事項の説明・利用料金や事業所で出来る事、出来ない事、重度化や看取りの対応、医療連携などを説明し、状態変化により退居になった場合は家族や包括支援センターと連絡対応して転居先を相談している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族と、家族会参加時や来訪時に個別面談したり家族ノートにでの意見や要望を聞いている。家族の意見等に対して職員で話し合っている	ホーム便りなどで定期的にホームの状況を報告、家族会参加時や来訪時に個別面談をしたり、また、家族ノートで意見や要望を聞いている。利用者、家族の意見は職員間で話し合い、共有し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見を聞いて要望を運営者に出している。ホーム全般相談しながら進めている	連絡協議会に加入し、地域のグループホーム職員との意見交換会、他のホーム見学研修などを実施している。管理者は活発に出された職員の有意義な意見をまとめ運営者に報告・相談し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが利用者に対してより良いケアが出来るように資格取得の支援・ストレス解消・気分転換に機会を作って食事会している		

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画を作成している。外部研修は経験に応じた研修に参加しホーム内の勉強会の時に研修報告してもらう。職員の技術や知識の向上に努めている。資格取得のチャレンジに支援している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2箇所の連絡協議会に加入して研修・講演会・事例検討会などの交流を通じてケアスタッフだけの意見交換会やホームの見学研修をして参考にしてケアに活用している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があった場合は、必ず本人に会って心身の状態や今置かれている状況を把握する。入所前にホームを見学してもらって雰囲気を経験してもらうようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様にホーム見学して他の利用者の様子など見ていただきながら、どう対応していくか事前にあらかじめ話し合うようにして理解してもらうようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内での生活状況を見てもらいながら本人が困っている事、不安な事に対して会話や行動の面から把握して改善・維持などの支援提案として母体の認知症デイケアの利用も進めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしながら、料理の味付けや、蕎麦打ち・行事職・習わしなどを教わったり一緒にしながら学んでいる。有難う、お世話になります等の言葉に励まされたり支えられたりしている		

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日々の暮らしの中での出来事、気づきの情報を「家族ノート」に書きとめ訪問の際に目を通してもらって話し合い、協力をもらいながら支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に認知症デイケアの利用者が多いので続けて利用してもらっている	デイケア施設の利用を継続したり、老人会、自治会行事の敬老会や運動会参加や、知り合いのお見舞い支援等を通じ、なじみの人や場との関係継続支援ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話の中に職員も入り最近皆で楽しく過ごす機会が持てるようになってきた。トランプ。ボール投げをするとその場に集まってきて一緒に楽しまれている。利用者同士の関係の情報共有し支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら入院先へ面会に行ったり、本人が来れなくても家族も近くに来られたら必ず立ち寄って下さる。死亡退所された家族からも年忌の際にはホームに来て思い出を話しに来られる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で声かけして言葉や表情などから把握し認識している。その言葉を「介護個人記録」「家族ノート」に記録して家族やスタッフとその真意を話し合っている	日常生活の関わりで表情や行動、会話の中から一人ひとりの思いを把握し、また、「介護記録」「家族ノート」の記録も参考にして家族、職員と話し合い、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・それまでいた施設・病院などにより生活歴・ライフスタイル等を聞き取り、バックグラウンド・状態を早く把握してその人らしい生活支援が出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを早めに把握して生活や行動を観察して出来ない事より出来る事を見つけて自信・生きがいを持ち生活を楽しめる支援をしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人をよく知る家族と担当スタッフの気づき・意見を聞きながら課題となる事を、他の職員とも話し合っってその人らしく生活できるように支援している	モニタリングは利用者個々に応じて概ね月1回実施している。本人、家族、担当職員の意見をもとに職員全員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルして食事・排泄・身体記録・日々の暮らしの様子・本人が発した言葉等記録して変化に早く気づくようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方や県外の家族の場合は必要に応じて通院や入院手続き・送迎など出来る事には対応して不安軽減するために支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の人と楽しく交流しながら生活できるように民生委員・自治会長など運営推進会議に出席してもらって良い交流機会が増えてきている。地域の運動会・保育園児との交流・敬老会など良い関係が出来てきた		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが母体病院からの入所であるので受診・通院は職員介助・訪問診療のケースもある。骨折などの外科的診療や歯科など複数の医療機関で支援が受けられている	利用者、家族の希望に応じ、通院、訪問診療を支援し、かかりつけ医による適切な医療を受けている。母体病院の看護師がホーム夜勤を担い、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援ができています。	

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム夜勤はほとんど母体法人の看護師なので常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援ができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	骨折や肺炎で入院すると認知が進行して退院してくるのがほとんどである。時間の許す限り面会に出かけ入院先からも認知介護の相談も受けて対応している。ホームで介護できる状態になったら医師と相談し家族の協力をもってリハビリ通院している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末の対応指針は母体法人でと契約時に同意を得ているが家族の気持ちの変化や本人の思いにも心配りして支援できるように話し合っている	重度化や終末期に向けた方針については、母体法人で契約時に説明し、同意を得ている。本人や家族に関わる関係者、医師、職員、看護師と連携をとりながらホームが支援できるケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力、母体法人の救急手当や蘇生術の研修において職員全員が対応できるように定期的に研修している。救命処置（心肺蘇生法とAEDの使用等）		

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力のもと昼・夜間想定した避難訓練・経路・消火器使用法などの実施・周囲に母体法人施設に協力体制が出来ている</p>	<p>法人全体で消防署立会いによる総合訓練と自主訓練を実施している。緊急通報装置、消火器、スプリンクラー設置ができています。周囲の母体施設との協力体制もでき、常時備蓄品も揃えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前で傷つけてしまう介護や声かけに配慮する、ミーティングの際日々の関わりを反省しながら職員が本人のプライバシーを他の家族や外来者に話さないようにしている	利用者に対して尊敬の念を持って接し、介護される側の気持ちを大切にしたいケアに取り組んでいる。利用者の言葉を大事に受け止め、プライドを傷つけない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせて声かけ、意思表示が出来ない場合には表情を見ながら食べたい、食べたくない、眠たい、眠たくないなど把握しながら出来る限り本人が決められるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応ホームの1日の流れはあるが、利用者の体調の把握、その場の本人の気持ちを聞きながらその人に合う支援で対応するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が出来る事は見守り、出来ないことは支援している。出かける時はよそ行きに着替え化粧をしている。本人や家族の希望があれば髪のカットや毛染めをしている		

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の作業所の菜園で出来た野菜・近くにある鶏舎の卵などの食材を使っている。野菜の下ごしらえ、味見、後片付けを手伝ってもらいながら苦手な物は調理を工夫している。同じ食卓で同じものを感想を聞きながら食事を楽しんでいる	下ごしらえ等に利用者の力を発揮してもらい会話を楽しみながらの食事時間となっている。彩りのある盛り付けは目でも楽しめる食事メニューである。また外食を楽しんでもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日チェックしている。食事内容を写真やメニューとして記録している。個別の摂取量の把握と定期的に管理栄養士のアドバイスを受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前・食後のうがいの声かけ、個別に誘導し見守り介助している。就寝前には利用者全員が義歯の為洗浄している。口腔ケアも随時受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握してトイレ誘導、排泄の意思表示の無い利用者は時間を見て出来る限りトイレで排泄できるように支援している。オムツ使用者も表情観察しながら交換している	フローシートを活用し、排泄パターンを把握、トイレ誘導している。オムツ使用者もサインを見逃さず、自立に向けた支援を行っている。	

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材やヨーグルトなどの乳製品を多く取り入れるようにしている。水分補給や散歩などの運動、ラジオ体操を取り入れて出来る限り自然排便できるように支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	冬場は週2回入浴日を決めているが伊佐は寒さが厳しいので気温を見ながら決める事もある。夏は3回しているが失禁や希望に応じて随時対応している	基本的に週2回の入浴支援を実施しているが、その都度、状況に応じ対応している。お風呂嫌い利用者にもその方に合った対応を職員で検討し声掛けなどを工夫し、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中散歩したり活動してもらってゆっくり休息できるようにしているが夕方から不穏状態が続く寝付けない場合は会話をしたり添い寝をすることもある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服の処方をファイルして職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には名前を確認して手渡しきちんと間違いなく服薬しているか確認している		

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑巾縫い・味噌作り・漬物の塩加減・蕎麦打ち・梅干し作りなど利用者の経験や知恵をもらって一緒に作っている。出来る事はしてもらって「有難う・助かりました」の言葉は添えるようにしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が欲しいものがあつたら一緒に出かけたり天気の良い日には散歩や喫茶店に出かけている。入院している兄妹や夫に会いたいという希望があるので勤務の状況を見ながら計画して支援している	天気の良い日は日常的に散歩、買いもの、喫茶店に出かけている。日頃縫っている雑巾を保育園に届けたり、花見や紅葉狩り、ソーメン流し、道の駅などへドライブしている。個別に利用者の希望に応じた支援もできている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの行事の花見・紅葉狩り・コンビニへの買物など小遣いはホームで管理しているので自分で支払いの可能な利用者には本人の財布に小銭を入れて買物を楽しんでもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙の書ける人は、電話で会話を楽しんでもらったり、手紙は自筆で書いてもらって宛名書きだけ支援する。出来ない利用者は家族に年賀状や絵手紙などを送ってもらっている。電話は声だけでもと家族にお願いしている		

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから台所が見えて音や臭いを感じられ、季節ごとに皆で作った作品を飾っている。マイコップ・マイはしを使っている季節の行事を取り入れて野菜や花が食卓で見れるなど工夫している	玄関の段差をなくし入り易く、広い廊下の壁には利用者の写真や職員、利用者の手づくりの作品、季節の人形が飾られ和やかな雰囲気が演出されている。台所と繋がったリビングにはテレビ、カセットラジオ、仏壇、加湿器があり、外部ウッドデッキへも自由に出入りでき、ゆっくりと居心地よく過ごせる場が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置いてそこで本を読んだり昼寝が出来るようにしている。ベランダをウッドデッキに改装して屋根をつけて日光浴や外の景色を見て気分転換を図っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や利用者の好きな物、馴染みの物を置いている。DIYなどで作った作品が飾ってあったり、ぬいぐるみなどタンスの上に飾っている	ベッド、タンス以外は利用者の好みの物や慣れ親しんだ家具などを持ち込み、個性のある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の際に転倒防止のため廊下には最小限必要なものだけ置くようにしている。皆と一緒にくつろぐリビングにはパズルや本など好きな時に利用できるように置いている。共有の仏壇も置いてありいつでも礼拝できるようにしている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 大口病院グループホームつどい

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない